

法政大学図書館への“学生の声” 分析レポート

山鹿, 砂預子

(出版者 / Publisher)

財団法人学術文献普及会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

大学図書館研究 / 大学図書館研究

(開始ページ / Start Page)

38

(終了ページ / End Page)

46

(発行年 / Year)

2009-08-31

法政大学図書館への“学生の声”分析レポート

山 鹿 砂 預 子

抄録：本稿は、法政大学市ヶ谷キャンパスで開講している司書課程科目授業時に行われたディスカッション内容のデータを分析したレポートである。学生から図書館への要望の声を受けて、「大学図書館の学習支援サービスはどうあるべきか」を問うたものである。分析目的は、「図書館に対する学生の要望は何かを理解し、今後の法政大学図書館は如何にあるべきかを問う」ことである。

分析方法は、質的データ分析法を採用した。まず変則KJ法でデータを整理し、その後グラウンデッド・セオリー・アプローチで分析結果をまとめた。抽出したカテゴリーは、1. 場としての図書館、2. 学習支援①資料情報②情報発信③情報リテラシー教育、3. 図書館との連携、4. 図書館への期待と今後の4つである。

キーワード：法政大学図書館、学生の視点、学習支援、学生と図書館、図書館への期待

1. はじめに

法政大学では、キャリアデザイン学部にて司書課程の講義を開講している。図書館としては、司書課程の学生・教員を貴重な図書館の支援者と位置付けており、司書課程との交流を2008年度より積極的に行っている。

一例では、司書課程授業時に図書館ガイダンスを行っている。「図書館特講」の授業時には、前期・後期にわたり、大学で購入しているオンラインデータベースの検索ガイダンス90分を行っている。また、「図書館情報学概論」や「資料組織論」「図書館資料論」などの授業時には、図書館ガイダンスツアーを行っている。これは施設内説明のツアーではなく、図書館の業務を知るためのツアーとなる。先ず初めに、市ヶ谷事務課管理職が講師となり教室にて図書館概要を説明、その後図書館内で、①閲覧カウンターでのサービス業務内容を閲覧担当者（業務委託職員）より聞く、②実際の目録作成の現場を見て、法政大学図書館における資料登録に関する説明を実務担当者（業務委託職員）より聞く、③図書館事務室内で、法政大学図書館総務課・市ヶ谷事務課専任職員の仕事内容の説明を聞き法政大学図書館を理解する、というものである。このガイダンスは、学生にとっては生きた図書館学だと考えている。今回の分析レポートで使用した資料は、これらの交流の中で、キャリアデザイン学部兼任教員村上郷子氏より提供された、「図書館情報学概論」授業時（2008年6月）に行われたディスカッション内容であり、他学部生を含む2年生以上の27名が法政大学図書館の学習支援サービスについて話し合ったものである。ディスカッションテーマは、「大学図書館の学習支援サービスはどうあるべきか」である。司書資

格取得を目指す学生の声である。彼らは、一般の学生より図書館に興味を持ち、利用頻度は高く図書館を良く知っていると思われる。単なる要望だけではなく改善策としての提案も出てきている。図書館に関して積極的な一部の学生の声であるが、これらの声は今後の法政大学図書館運営において大いに参考にすべきと思われる。それらの分析内容を報告する。なお、授業内で行われた独自のディスカッションのため図書館側からの質問・コメントは一切入っていない。

2. 分析方法（文末に資料掲載）*

分析は、質的調査法で得た実データを分析する方法である「質的データ分析法」で行った。今回のような話合いのデータ資料を分析する時に使う有効な方法であり、実証データから、なぜそのような現象や出来事が起きているのかを説明する¹⁾。今回使用したのは次の2つの分析方法である。まず、データの振り分け作業をするために簡易整理法といわれる変則KJ法で学生の発言データを整理した²⁾³⁾。これはデータをまとめあげるのに有効な手法である。その後、グラウンデッド・セオリー・アプローチ⁴⁾によって分析結果をまとめた。

まず、学生の発言全データよりエッセンスと思われる「語」を抽出し、事象を浮かび上がらせた。次に、学生の発言データを読み込み、意味上まとまりのあるものを40グループにまとめ、一行見出しを作成した（資料表1. 学生の声一行見出し）。さらに、データを詳細に読み込んで、相互に関連しあっているかどうかの比較と振り分け作業を行い、15の関連小グループにまとめ小見出しをつけた（資料表2）。そして、ストーリー構築のため6つの関連中

グループを作成した(資料表3)。最後に、目次構成案として4つのカテゴリーに分類して文章化した(資料表4)。こうして分析から抽出されたものは1. 場としての図書館, 2. 学習支援, 3. 図書館との連携, 4. 図書館への期待と今後, の4つのカテゴリーと2. 学習支援の中の①資料情報②情報発信③情報リテラシー教育, の3つの概念である。

3. 分析内容

3.1 場としての図書館

学生は図書館に何の目的で来るのか? 資料探しや勉強するためにだけではなく、私たちが考えている以上に学生は図書館を色々な形で利用したいと思っていることがわかった。

「グループ学習ができる場所」また「ソファ、談話室が欲しい」と発言があるように、一人だけではなく仲間と話しあえる場所、また仲間以外の他の人とコミュニケーションする場所でもある、と捉えていることがわかった。本を媒体として人と交流する場であり、そこは「飲食ができておしゃべりができリラックスができる場所」であることをも求めている。

また、混雑解消のため受付カウンターを拡大してほしいという発言もあった。カウンター面積を拡大して、対応するカウンター人員を増やしてほしいという要望である。法政大学市ヶ谷キャンパス図書館施設は、主に学習用・教養書関係の図書(158, 078冊, 2008.3.)を配置している開架フロアと、学術研究用図書・雑誌・政府刊行物(586, 180冊, 2008.3)を配置している閉架フロア(B1-B4でB2-B4は書庫)を設置している。開架には閲覧(貸出・返却)カウンター2箇所、カード発行カウンター1箇所が設置されており、担当者もそれぞれに配置されている。通常利用者が並んで待つことはないが、試験時期や時間帯によっては、一時的に混雑することがある。閉架には、閲覧(貸出・返却)カウンター2箇所、データベース受付カウンター、レファレンスカウンターが設置されており、担当者もそれぞれに配置されている。書庫には学部生も入れるようになっているが、希望者には担当が出納してくるので、その間待たせることもある。やはり時期や時間帯によっては一時的に混雑する。

勉強をするにも、現状の座席数の不足を指摘する「椅子が足りない、座席数を増やしてほしい」という発言や「閉架を利用しやすくし、開架との往來を簡単にしたい」と施設の不満を感じているようである。

学生の要望にもあるように、現在の法政大学市ヶ

谷キャンパス図書館施設は狭隘である。学生の座席数(1,386席, 2008.5)を確保するのがやっとならぬ。ましてソファを置いた談話室を設置するゆりの空間は作れないのが現状である。

市ヶ谷キャンパスでは、グループで学習ができる個室(共同読書室)を6部屋設置しているが、人気のスポットでありシーズンによっては満室となる。

一人で勉強するにも、グループで学習するにも、便利で快適でゆとりある空間であることが図書館には求められている。法政大学は、今後これらの要望を取り入れた図書館建築構想が重要となろう。

3.2 学習支援

①資料情報

学生は自分の必要な資料の入手方法は、簡単で便利であって欲しいと思っている。また、詳しい資料情報を入手したいと思っていることがわかった。

現在、連携して行っている山手コンソーシアム加盟館からの資料貸出方法について、「取り寄せ・返却が市ヶ谷図書館内でできるように」なれば便利と考えている。他大学に行けない日は、必要な資料は手間をかけずにすぐに手に入れたいと思っていることがわかる。大学で行っている各キャンパス館からの資料取寄せ運行便を、コンソーシアム加盟館にも走らせたらどうかという提案である。

また、自分たちが授業で使用する内容の参考資料情報は、自分ですぐに見つけられる場所に置かれていることを望んでいる。「教員から推薦の参考書・教科書を教員(授業)ごとに分類し設置する」「学部(学科)のコーナーを作り必読書・専門書・参考書を設置」した方が良いと考えている。またそこには、「学部ごとに専任職員を配置する」「授業用の参考文献・推薦図書は複数本入れてほしい」とあるように、自分が必要としているものをすぐに取り出せて、そこで質問もすぐにできるような態勢を望んでいる。自分の学部の担当者がいて、質問内容もすぐに理解してもらい、気軽に相談ができ安心感ももてる便利な図書館であれば良い、と思っていることがわかる。

資料情報そのものも、現在図書館で行っているものよりさらに詳しい情報を望んでいる。「学部・学科の貸出ランキングがわかるようにしてほしい」や「学生の意見を取り入れた選書を」と「Web上に読んだ人のブックレビューや有用度を載せてほしい」との発言がある。自分で選ぶ場合に、まずその本の情報を得たいのであり、他の学生が何を選んでいくかを見たいと思っている。それを目安にして本を選

びたいと考えている。

「教員の推薦する本を見やすくしてほしい」「学部・教員について特集したコーナーを設置してほしい」と望んでおり、現状では自分の取り組んでいる課題に対して、どんな資料を利用するか選ぶのが難しいと感じていることが見て取れる。そして、現実の図書館での見せ方の工夫を望んでいるようである。かといって資料について何かを聞きたいときに、現在のレファレンスカウンターには聞きづらいと感じている。

また、「職員のこれが好きだという1冊を紹介する」「職員のお勧め本を紹介するコーナーを」や「本自体歴史的価値のある貴重な本をわかりやすい解説と共に展示を」「知識人の選書を見たい」と望んでいることでもわかるように、知識に裏づけられた職員の選書も見たいと思っている。

反面、娯楽本や人気のある小説・雑誌の購入も望んでいる。

リクエストについては「雑誌も許可してほしい」という要望もでている。図書館では、図書のリクエスト（購入希望）の受付を行っているが、雑誌は受付けていない。市ヶ谷キャンパスでは、和雑誌を約7,000タイトル（開架約70タイトル、閉架6,940タイトル、2007年度）購入している。学生は、現在図書館で購入している雑誌だけではまだ十分ではない、必要としているものがない、と感じていることがわかる。

現在の市ヶ谷図書館では、学部（学科）コーナーは特別には設けていないが、教員から指定図書として要望のあったものは複数本購入し、NDC分類別に閲覧室に別置している。また、職員が選書したのも含む「新着図書」は、別コーナーを設けてわかりやすくしている。常設展示においても、タイムリーな話題を設定するなど様々な工夫をこらしている。

これらの学生の声によれば、現在の図書館が行っている資料情報提供方法では、まだまだ物足りなさを感じており、資料の見せ方にはもう一工夫求めていることがわかる。

しかし学生は、図書館職員が持っている知識に、少なからぬ期待をしていることも判明した。

他に、入学したとき何もわからなかったので「新入生向けレポートの書き方の専門書を購入してほしい」「過去のテスト問題の設置をしてほしい」「上級生のレポートの閲覧」という要求がある。学生は、初めて書くレポートの書き方や、大学の授業課題取組みのサポートを図書館に望んできていることがわかる。図書館での新入生対応策も検討事項となる。

資料情報の提供の中で、Webサイト関係の要望については、現在本学では行っていないような「新刊のお知らせを掲載する、本の感想サイトを作ってWeb上に載せる」などが出ている。また「OPACの精度の向上」やオンラインデータベースの同時アクセス数を増やして欲しいという要望もある。他に、OPAC検索の「図書」について、現在一部実施している“あらすじ”などの掲載については便利と感じているようで「すべての本のあらすじ目次を掲載」して欲しいと思っている。

それらの発言は、現在のコンテンツでは学生が必要としているものがない。または十分ではない、と感じているということである。またその事はWeb上での情報提供は有効であることを意味しており、しっかりOPACやデータベースを利用していることを示している。このことは今後、図書館からの効果的な情報発信方法にもつなげることができるのではないかと考える。

図書館の本来業務の一つである資料情報提供において、改めて考えさせられる学生の声であった。どのような内容が提供できるか、どのようなスタイルでの発信方法が良いのかは、日々の検討事項でありこれからも重要な課題である。これらの学生の声を運用に反映させていくことによって、学生の図書館利用促進に繋がっていくことが期待できる。

②情報発信

学生は、図書館で行っている多様な学習支援サービスが十分に一般学生に伝わっていないと感じている。図書館の広報活動の見直しを提案している。

「検索方法や図書館のWebサイト機能をアピールしたほうが良い」との発言があり、我々が発信した情報がいきわたっていないことを示していると思われる。また、ガイダンスが浸透していない、との意見があり、参加者の中には図書館のガイダンスなどの学習支援サービス活動をこの話し合いの中で初めて知ったという学生もいた。図書館で開催する講演会や講習会時に学生が集まらないのも、図書館が発信している情報は、学生の行動線とは重なりあわず mismatch が起きているのではないかとと思われる。掲示板でのお知らせやホームページ掲載だけでは十分に伝わらないのである。

対策としては、「図書館から新聞を発行する。新着図書の紹介をする」、また学内掲示板を充実させ、情報センターとの連携などで図書館の広告活動を徹底して行うというような提案も出ている。大学のいろいろな所でアナウンスをしてほしいという声は図書館からの情報を得たいとは思っていることがわか

る。

図書館のホームページには、学習支援サービスのお知らせやパスファインダーの掲載、レポート・論文を書くための資料収集方法など学生に役立つ情報をたくさん掲載している。どんなに良い学習支援サービスを行っても学生が利用しなければ意味がない。たくさんの学生に利用してもらいたい、そのためには図書館は、もっと学生に近づいていくという視点を持ち、学生の行動範囲の中に確実に情報を流す必要があるだろう。

果たして学生には、いつ、どこで、どのような方法ならより広く情報が伝わるのか。どう発信したら学生は情報を拾いやすくなるのか。

効果的な情報発信方法の検討は、喫緊の課題でもある。

③情報リテラシー教育

現在、法政大学図書館が最も力を入れている情報リテラシー教育については、「ゼミサポート制の文献検索紹介は非常に良い」という声の通り、学生には好意的に受け入れられている。ゆえに、文献検索以外のいろいろな講座を開いて欲しい、と思っていることがわかった。

例えば、「新入生向けの図書館利用講座、パワーポイント講座、文章の書き方講座、レポート・論文作成講座など有益な講座、さらに紛失・盗難・劣化などを防ぐ資料の扱い方講座」など多様である。

また就職活動における「企業提出用のエントリーシートの書き方講座」を開き、「キャリアセンターと連携して就職支援を」という声まで出てきている。さらに「過去の上級生のレポートを見たい」という発言からも示されているが、レポートの書き方を理解できていない状態で躓いていると思われる。そしてその学習支援を、図書館に求めてきていることがわかる。

現在行っているガイダンスについて、「ゼミサポート制を個人レベルでやって欲しい」という意見があった。「ゼミサポート制」による図書館ガイダンスは、教員の任意による申込から始まるものである。教員の申込があれば、ゼミ全体でのガイダンスや個々のレファレンスを受講できるが、教員が申し込まない限り図書館ガイダンスを受講できない学生が出てくる。図書館がガイダンスを行っている中で懸念していることは、学生も同じように感じていることがわかった。また、「習熟度に合わせて段階的なガイダンスを実施する」という、前向きな発言もある一方、「自分からはガイダンスを受けない」という意見もあるので、「授業に図書館活用ガイダンス

を取り入れるべき」という声があった。「図書館の授業」として公開したらどうか、という提案と理解した。それは、図書館の今後の大きな検討課題となるのではないだろうか。いずれにしても図書館で行っている現在の基礎ゼミガイダンスや専門ゼミガイダンスなど様々なガイダンスは、有効であるという認識である。学生の要望に近づくためにも、教員と学生と連携しながら充実したガイダンスを実施することが必要である。そして、全学生が図書館の行っているゼミガイダンスを受講できるようにすることである。そのためには、ゼミを持つ全教員が図書館ガイダンスの申込をすることが不可欠となる。いま法政大学図書館の最大の目標は、ゼミをもつ全教員へ呼びかけて、ゼミガイダンス100%実施を目指すことにほかならないと考える。

上級生との関わりでは、「上級生によるメディアリテラシー教育」を行って欲しいという声があった。これはネット社会での危険なものについて先輩から教えてもらいたいという要望である。また、そこで上級生と縦のつながりを持ちたいという意見があり、上級生との交流の場を“図書館”に求めていることがわかる。図書館という場所で情報リテラシー教育を介して人的交流がしたいと望んでいる。その発言から読み取れることは、現在の学園生活の中で、先輩や後輩という縦のつながりを持つ機会が少ない学生がいるということを示している。

他に学生は、図書館で講演会開催やイベントを希望している。「学術的好奇心を煽るような面白い講演会の実施」という発言でわかることは、図書館を「知の発信地」として捉えており、向学心旺盛な学生は、図書館からさまざまな知識を吸収したいと考えていることがわかる。

これらの発言からわかることは、図書館で行う情報リテラシー教育に対して、学生の期待が高まっていることである。学生は図書館を頼りにしており、図書館の情報リテラシー教育支援の内容の充実と拡大を促している。学生の要望に近づき大学の学力向上に貢献するためには、どのような学習支援を、どのような形で行えばよいかを模索していく必要がある。その理解を深めるためには、学生と図書館員とのさらなるコミュニケーションが求められている。全館員で知力を結集させて事に当たらなければならないだろう。

3.3 図書館との連携

学生は、図書館との接近方法として自分たちをもっと利用して欲しいと思っている。

「修繕本や未整理資料を学生にさせる」という声

があるが、これは破損本の修理や資料の整理を、ボランティアなどで学生にさせたらどうかという提案である。司書を目指す学生らしい発想であると考えられる。

「落書き・乱丁本を見つけたら図書館に通告できるシステムを作る」また「アンケートを実施する」など、図書館組織と司書課程受講生の連携体制を強化して、もっと「学生の声を活かした」運営を望んでいることが判明した。連携するためには、図書館と学生がスムーズに交流できるような体制作りが必要である。

利用者と職員の人的交流については、現在の図書館を「職員が無愛想で暗い」「カウンターの人数が少なく質問をしたくてもできない」「レファレンスを利用しようとは思わない、職員に声をかけにくい雰囲気」と感じている学生がいることがわかった。法政大学図書館閲覧カウンターには、業務委託職員が配置されている。またレファレンスカウンターは、通常9時から17時までを専任職員、それ以降22時までを業務委託職員が対応している。みな丁寧な対応を心がけているつもりである。しかし、声をかけづらいと考えている学生もいるようだ。

「院生や上級生の相談員を置いて欲しい」という声や、上級生のボランティアに学習支援をお願いするという提案がある。その発言から読み取れることは、学生は図書館で働いている人々ともっと触れ合いたいと思っているということである。気軽に相談できるような態勢であり、人的な交流支援というサービスを図書館に望んでいる。法政大学には、一部の学部ではあるが、個別に学習相談ができる時間「オフィスアワー」が存在する。これは学部教員が交替で学部学生の学習相談に対応するものである。また、ゼミの教員も学習相談には対応している。しかし学生は、図書館に人的な支援を望んできているのだ。

学生は図書館に対して、街の書店のように本を探すことだけが目的ではなく、自分の大学の図書館として学習する上で支えにしたいと考えている。図書館を身近に感じていたい、そして大いに利用してそこから知識だけに限らず何かを得たい、と思っていることがわかる。

図書館の最大の利用者は学生である。図書館が今最も考えなくてはならないことは、利用者の視点に立つ、ということではないだろうか。図書館組織と学生、図書館員個人と個々の学生との関係作りであり、それをどのような形に構築していくかは、今後の図書館の大きな課題となると考えられる。

そこで、今、法政大学図書館が展開し始めた「ラ

イブラリーサポーター制度⁵⁾や現在行っている「リエゾン・ライブラリアン⁶⁾による情報リテラシー教育などの学習支援活動⁷⁾」の展開は、学生の声に大いに応えられるものと期待したい。

3.4 図書館への期待と今後

学生の発言の中での「ブックポストが便利ですが、もっと校舎内に増やして欲しい」という要望を見ても、「今の図書館を利用しやすい」と感じている学生がいることを示している。そしてガイダンスなど、図書館が行っている情報リテラシー教育などの学習支援を評価していることも判明した。

その期待に応えるためには、今後更なる改善・成果を実らせ継続していかなければならないことが判明した。学生が何を求めており、図書館はそれに対してどのような学習支援ができるのか、そのためにはどのような改善・改革が必要なのかをきちんと把握していかなければならない。法政大学図書館員の力量が問われることになる。

学生と図書館は法政大学という同じフィールドにおいて「知の向上」という目標を共有している。最大の利用者である学生の声を如何に図書館運営に反映させていくかは、今後の図書館の方向性を左右するであろう。そのことは、大学の力量にも大きく影響していく可能性がある。

今回は、授業時の学生の話し合いを通して図書館への要望という形で「学生の声」を聞くことができた。その結果、学生の目線から図書館を客観的に見ることができた。この結果を実務へと結び付けていかなければならないだろう。そして今後は、図書館側から定期的に「学生の声」や「利用者の評価」を取り入れる体制が必要であろう。利用者にとって魅力ある図書館にするために、そして図書館の質を向上させるためにも、図書館の中からだけでなく外から、すなわち利用者側に立って見るということが重要であることが今回の分析で示されている。

4. 分析結果まとめ

今回分析した内容をカテゴリー順にまとめてみる。

- ① 学生は、自分の大学図書館はゆったりとくつろげる快適な場所であること、そしてグループ学習や談話ができる部屋があることを求めている。
- ◇ 学生は、図書館施設を大いに利用したいと思っている。
- ◇ そして、図書館に集まる人々との交流を望んでいる。

法政大学図書館への“学生の声”分析レポート

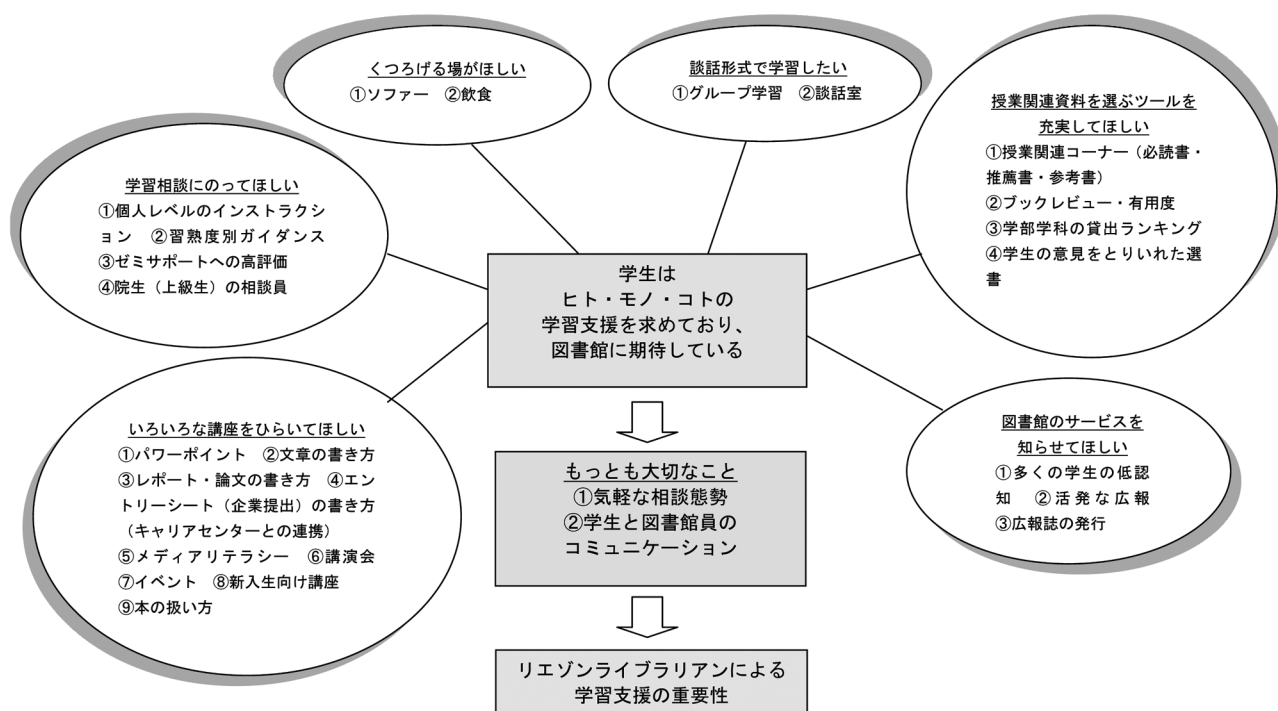


図1 『学生の声と図書館』

- ② 授業に関連する資料を選ぶツールの充実や、人的支援をする。また、いろいろなサービスをもれなく知らせてくれることを求めている。
- ◇ 学生は、学習する上で、図書館にある資料・提供されているサービスを上手に使いたいと思っている。
- ③ ゼミガイダンスのように、学習に役立ち自分の力を向上させるための講座を開いてくれることを求めている。
- ◇ 学生は、図書館から自分にとって必要と思われる知識を吸収したいと思っている。
- ④ そして、ゼミ単位だけでなく、個人レベルの学習相談が気軽にできるようになることを求めている。
- ◇ 学生は、学習相談する場所としては、図書館が良いと思っている。

このように学生は、ヒト・コト・モノの学習支援を求めてきており、図書館に大いに期待していることが分析の結果示された。

大切なことは、学生は図書館に対して大胆に変化することを求めているということである。利用者の声を聞き、それに対応してほしいと望んでいるのだ。学生は便利な図書館を利用したいと思っている。法政大学図書館は、利用者にとって使い勝手の良い学習の場所であることが責務となる。

法政大学図書館は、2004年7月に『法政大学図書館将来計画』⁸⁾を策定した。以降、基本理念に掲げ

た「図書館サービス」を充実させ利用者満足の向上を目指してきた。今回の「学生の声」は、法政大学図書館の更なる進化を促している。

以上の分析の結果を「図1 学生の声と図書館」に表す。

5. おわりに

本稿は、2008年11月4日「図書館事務部市ヶ谷事務課職員研修」時に報告した内容をまとめたものである。すでに学生が声を発してから1年が経過した。この間に始まったサービスもある。一例では、ライブラリーサポーターが選書してきた本を、コーナーを設けて展示している。多くの学生に見てもらうように開架の入口近辺に設置した。「学生の選書」ということがわかるように目立つように表示しており、見せ方にも工夫をしている。学生には好評を博しているようで貸出もされている。また、院生による「学習アドバイザー制度」を2009年5月より開始した。これは、上級生が下級生に対して行う学習支援である。大学院生がピアサポートの視点で、学部生に対してレポート・論文作成の書き方などの学習支援を図書館内で行っている。まだ始まって間もないが、徐々に学生に認知されてきている。法政大学図書館は、これからも学生の要望に近づいていけるように、進化を続けていくことが期待できる。

末筆ながら、本稿に関しまして資料を提供して頂きました法政大学キャリアデザイン学部兼任教員村上郷子氏にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

※ 分析方法 資料掲載

表1. 学生の声一行見出し

グループ番号	学生から図書館に対して「学習支援サービス要望」の声	本文中解説掲載欄
11	グループ学習ができる場所やソファ、談話室が欲しい。	3.1.
18	閉架を利用しやすくし、開架との往來を簡単にして欲しい。	3.1.
20	飲食できるスペースが欲しい。	3.1.
24	椅子が足りない、座席数を増やして欲しい。	3.1.
1	山手コンソーシアムの本を取り寄せ・返却が市ヶ谷でできるようにして欲しい。	3.2.①
3	雑誌のリクエストを許可して欲しい。	3.2.①
4	学部・学科の貸出ランキングがわかるようにして欲しい。	3.2.①
7	学部（学科）のコーナーを作り必読書・専門書・参考書を設置する。	3.2.①
8	教員から推薦の参考書・教科書を教員（授業）ごとに分類し設置する。	3.2.①
9	職員のこれが好きだという1冊を紹介する。	3.2.①
6	学部ごとに専任職員を配置する。	3.2.①
14	歴史的価値のある貴重本の展示をして欲しい。	3.2.①
15a	職員のお勧め本、教授の推薦参考書を紹介するコーナーの設置。	3.2.①
15b	知識人の選書が見たい。	3.2.①
16a	学生の意見を取り入れた選書。	3.2.①
21	Web上に読んだレビューや有用度、新刊のお知らせを掲載する。	3.2.①
22	すべての本のあらすじ目次を掲載する。	3.2.①
23b	過去のテスト問題の設置をして欲しい。	3.2.①
25	授業用の参考文献・推薦図書は複数本入れてほしい。	3.2.①
26a	新入生向けレポートの書き方の専門書を購入。	3.2.①
36	OPACの精度向上（検索内容）。新着順、発行順に並べ替える。	3.2.①
34	娯楽本、人気のある小説、雑誌・新聞を複数冊入れて欲しい。	3.2.①
38	オンラインデータベースアクセス数を増やす。	3.2.①
2	検索方法や図書館のwebサイト機能をアピールしたほうが良い。	3.2.②
33	図書館から新聞（通信）を発行する。新着図書の紹介などをする。	3.2.②
37	学内掲示板・情報センターと連携など、図書館の広告活動の徹底。	3.2.②
10	PPT、文章の書き方、レポート・論文作成講座など有益な講座を行う。	3.2.③
12a	ゼミサポート制の文献の紹介は非常に良い。	3.2.③
12b	ゼミサポート制を個人レベルでやって欲しい。	3.2.③
13	習熟度に合わせて段階的なガイダンスを実施する。	3.2.③
17	上級生のメディアリテラシー教育（ネット上の注意など）を行う。	3.2.③
23a	過去の上級生のレポートを見たい。	3.2.③
26b	新入生向けの図書館利用講座を開講する。	3.2.③
27	授業に図書館活用ガイダンスを取り入れるべき。	3.2.③
29	就職活動支援エントリーシートの書き方講座、キャリアセンターと連携する。	3.2.③
32	学術的好奇心を煽るような面白い講演会の実施。	3.2.③
39	紛失・盗難・劣化を防ぐために資料の扱い方講座があるとよい。	3.2.③
5	修繕本を学生にさせる。未処理資料を文（史学科）にさせる。	3.3.
16b	学生的心声を生かす工夫。	3.3.
19	落書き・乱丁本を見つけた時、司書に通告するシステムの導入。	3.3.
28	図書館カウンター人数の不足の改善を、質問ができない。	3.3.
30	院生（上級生）の相談員を置いて欲しい。職員とのふれあい。	3.3.
31	学生に対してアンケートを実施する。	3.3.
35	職員が無愛想で暗い、入りやすい雰囲気作りをして欲しい。	3.3.
40a	今の図書館は利用しやすい。	3.4.
40b	ブックポストは役に立っている。校内にもっとあると良い。	3.4.

※同番号a.b.は同一人物の声。

法政大学図書館への“学生の声”分析レポート

表2. 《学生の声》《関連：小グループ小見出しつき》

A	<資料の入手方法> (1) (3)
B	<効果的な情報発信> (2) (33) (37)
C	<学部単位の情報提供> (4) (6) (7)
D	<図書館組織との連携> (5) (16b) (19) (31)
E	<見たい資料> (8) (9) (14) (15a) (15b) (16a) (23b) (25) (26a) (34)
F	<開いて欲しい講座の種類> (10) (12a) (26b) (29) (39)
G	<ゆとりの空間> (11) (18) (20) (24)
H	<ガイダンス> (12b) (13) (27)
I	<上級生との繋がり> (17) (23a)
J	<Webの活用> (21) (38)
k	<OPAC活用> (22) (36)
L	<図書館にいる人との交流> (28) (30) (35)
M	<講演会> (32)
N	<期待される図書館> (40a)
O	<今必要なもの> (40b)

表3 《学生の声》《関連：中グループ》

I	<資料情報>
(A)	(資料の入手方法) (1) (3)
(C)	(学部単位の情報提供) (4) (6) (7)
(E)	(見たい資料)
(8) (9) (14) (15a) (15b) (16a) (23b) (25) (26a) (34)	
(J)	(Webの活用) (21) (38)
(K)	(OPACの活用) (22) (36)
II	<図書館からの情報発信方法について>
(B)	(効果的な情報発信) (2) (33) (37)
III	<図書館と学生の関係>
(D)	(図書館組織との連携) (5) (16b) (19) (31)
(L)	(図書館にいる人との交流) (28) (30) (35)
IV	<情報リテラシー教育の具体的な内容>
(F)	(開いて欲しい講座の種類) (10) (12a) (26b) (29) (39)
(H)	(ガイダンス) (12b) (13) (27)
(I)	(上級生との繋がり) (17) (23a)
(M)	(講演会) (32)
V	<図書館に集まる>
(G)	(ゆとりの空間) (11) (18) (20) (24)
VI	<期待される図書館>
(N)	(期待される図書館) (40a)
(O)	(今必要なもの) (40b)

表4 《学生の声》カード部分目次構成案

1.	場の図書館
☆	コミュニケーションをする場所
☆	利用しやすく快適な場所
(a)	ゆとりの空間 (11) (18) (20) (24)
2.	学習支援
①	資料情報
☆	自分が必要な本がすぐわかるところに
☆	プロが勧める本
☆	他の人が読んでいる本は？
(a)	学部単位の情報提供 (4) (6) (7)

- (b) 見たい資料類
(8) (9) (14) (15a) (15b) (16a) (23b) (25) (26a) (34)
- (c) 資料の入手方法 (1) (3)
- (d) Webの活用 (21) (38)
- (e) OPACの活用 (22) (36)

②情報発信

- ☆便利な機能が伝わっていない
- ☆広告活動方法を再検討
- (a) 効果的な情報発信 (2) (33) (37)

③情報リテラシー教育

- ☆就職活動も支援して
- ☆有益な講座の開講
- ☆新入生対策を
- (a) 開いてほしい講座の種類 (10) (12a) (26b) (29) (39)
- (b) ガイダンス (12b) (13) (27)
- (c) 上級生との繋がり (17) (23a)
- (d) 講演会 (32)

3. 図書館と学生の関係

- ☆学生を使ってください
- ☆学生の声を聞いて
- ☆相談しやすい体制作り
- ☆職員もサービス精神を
- (a) 図書館組織との連携 (5) (16b) (19) (31)
- (b) 図書館にいる人との交流 (28) (30) (35)

4. 図書館の今後

- ☆さらに充実したガイダンス
- ☆サービスの強化
- (a) 期待される図書館 (40a)
- (b) 今必要なもの (40b)

注記・参考文献

- 北澤毅, 古賀正義編. 質的調査法を学ぶ人のために. 世界思想社, 2008, 268p.
- 水野節夫. 現代社会学叢書事例分析への挑戦. 東信堂, 2000, 441p.
- 川喜田二郎. 発想法. 中央公論社, 1967, 220p.
- グレイザー, B.G., ストラウス, A.L. データ対話型理論の発見. 後藤隆, 大出春江, 水野節夫訳. 新曜社, 1996, 376.7p.
- ライブラリーサポーター制度「図書館業務資料」(内部資料)より抜粋
2008年度後期より取組を開始した学習支援。目的は学生の図書館への働きかけを生み出し、図書館サービスの改善にいかす。その結果学生の満足度を高めることである。方法は図書館のサポーターとして学生を公募し、①学生と懇談する。
②学生と一緒に選書をするなどで学生の視点を取り入れた図書館運営を目指している。
- リエゾン・ライブラリアンとは
「図書館業務資料」(内部資料)より抜粋
リエゾン・ライブラリアンには、二つの機能がある。第一に、カウンターの内側で来館する利用者へサービスを提供するだけではなく、カウンターの外側へ出て利用者(教員・学生)と積極的に接

触し連携し、いっそう効果的なサービスを提供する機能である。第二に自らの担当分野のもとに、選書・レファレンス・情報リテラシー教育・情報発信を関連付けて取り組み、個々のサービス効果を高める機能である。

- 7) 2004年度より多摩キャンパスで開始した授業内情報リテラシー教育支援「ゼミサポート制」(当時の名称:ゼミ担当制度)を2007年度後期より3キャンパスで全学的に展開した。これは、図書館職員(総務課を除く)が、専門ゼミを各主題別に担当する。担当したゼミで必要な資料の選書からゼミ全体のガイダンス、その後も個人レファレンスを継続して行うものである。最初は、教員の申請によりゼミ全体のガイダンスを行う。ガイダンス内容は、教員と綿密に相談しながら決定する。その後

個人レファレンスも、教員や学生と連携して行うもので、2008年度より「リエゾン・ライブラリアン」として意識化して取り組んでいる。

- 8) 法政大学図書館将来計画2004-2010
法政大学の図書館将来計画は法政大学図書館ホームページ<http://hosei.ac.jp/general/lib/index.html>の「図書館案内」の「図書館概要・規定・将来計画」のページで公開している。
法政大学図書館将来計画策定委員会.法政大学図書館.2004.7. (オンライン), 入手先
<http://www.hosei.ac.jp/general/lib/3rd_ingd/syouri_keikaku.html>, (参照2009-06-27)

<2009.3.23 受理 やまが さよこ 法政大学図書館事務部市ヶ谷事務課レファレンス担当主任>

YAMAGA Sayoko

An analytical report of “Student’s Voices” to the Hosei University Library

Abstract: This paper reports on the analysis of data collected from discussions in the librarianship classes held on the Ichigaya campus of Hosei University. Students were asked about their expectations of the library, and the library used the information gathered to consider “how best the library should support student learning.” The goal of data analysis was to “understand student expectations of the library, and to consider the future of Hosei University Library.”

Qualitative data analysis method was utilized. First data was organized using KJ Analysis, and then the results were compiled using Grounded Theory Analysis. The four following categories were extracted : 1. Library as Place, 2. Learning Support (1) Materials (2) Information Delivery (3) Information Literacy Education, 3. Cooperation with the Library, 4. Expectation of the Library and the Future.

Keywords: Hosei University Library / student perspectives / learning support / students and libraries / expectations towards libraries